

## 飯田紀彦先生研究業績書

雑誌名	Psychologist : 関西大学臨床心理専門職大学院紀要
巻	1
ページ	84-90
発行年	2011-03-12
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10112/00018713">http://hdl.handle.net/10112/00018713</a>

# 研 究 業 績 書

関西大学大学院心理学研究科心理臨床学専攻教授（同専攻長）

保健管理センター所長

氏名 飯田紀彦

著 書	単著 の別 共著	発行 の年月日 発表	発行所・発表雑誌等、 又は発表学会等の名称
『染色体異常』	共	1981・6	中外医学社、東京 118P
てんかんおよびその辺縁疾患—統計遺伝学、『神経疾患の 遺伝学 12 章（近藤喜代太郎、鈴木義之編、分担執筆）』	共	1993・6	金原出版、東京（508P） 265-280P
環境とこころの健康『生命の星—地球環境—』（分担執 筆）	単	1994・4	玄文社、京都（255P） 9-62P
精神身体疾患、精神分裂病、うつ病、病態『ビジュアル 臨床栄養百科、第6巻、疾患別の臨床栄養Ⅱ—内科（2）、 分担執筆』	単	1996・9	小学館、東京 150-153P
健康高齢者に対する精神的健康の評価『健康長寿を支え る高齢者健診と保健活動（笹森典雄、小山和作、田村政 紀編、分担執筆）』	単	1998・2	ライフ・サイエンス・センター、 横浜 127-134P
『逃避の病理—現代青年の苦悩』	単	1998・3	関西大学出版部、大阪（211P）
高齢者のメンタル・ヘルス『老いを考える、共著』	単	1998・3	関西大学出版部、大阪（154P） 29-50P
リハビリテーション医療におけるQOL『リハビリテーシ ョン患者の心理とケア（渡辺俊之、本田哲三編集）』	共	2000・7	医学書院、東京（266P） 137-146P
脳卒中とQOL『QOL 評価法マニュアル（万代隆監修）』	共	2001・7	インターメディカ、東京（454P） 226-233P
病態による分類—36 インターネット依存、症例：男性・ 32 歳『メンタルヘルスケア実践ガイド、手法を理解して、 事例で体験する（分担執筆）』	単	2002・3 2008・3	産業医学振興財団、東京 （634P） 522-525P 第2版（574P） 441-443
ゆれ動く若者と家族：現代芸術からのメッセージ	単	2002・7	関西大学出版部、大阪
介護家族のQOL（渡辺俊之編、現代のエスプリ 437、介 護家族という新しい家族、分担）	単	2003・12	至文堂、東京、71-79
第5章学校保健、I. 学校保健管理体制、コア・ローテ ーション地域保健・医療／予防医療（河野公一、川口毅、 松浦尊磨編）	共	2005・3 2008・3	金芳堂、京都（354P） 269-293 改訂第2版（363P） 275-279
プラクティカル医療心理学（飯田紀彦編著） 飯田紀彦、寺嶋繁典、岡田弘司、井上澄江	共	2006・7	金芳堂、京都、（231P）
キャンパスにおける薬物汚染と大学生の心性、26. 依存 症・衝動制御障害の治療（福居顕二編）、Ⅲ 依存の心理・ 社会的背景、専門医のための精神科臨床リユミエール （松下世明正明編） 飯田紀彦、河原みどり	共	2011・3	中山書店、東京
翻 訳			
ビュルガープリンツ、ある精神科医の回想上・下（福田 哲雄監訳）	共	1975・5	佑学社、東京、 上 227P、下 226P
学 術 論 文			
精神運動変形波（Psychomotor Variant）が認められた 非定型精神病の1例	共	1973・6	臨床脳波 15：395-396

二重盲検・交差法による Clozapamine と Caripramine の精神分裂病に対する薬効比較	共	1973・11	診療と新薬 10 : 2729-2735
Stress and Biological Rhythm: Their Impact on Psychophysiological Research Strategy into Schizophrenic Illnesses	共	1974・6	Psychoneuroendocrinology : P83-101 Karger Basel
神経症に対する Lorazepam の効果	共	1974・11	基礎と臨床 8 : 3700-3707
Abgrenzung der zwei Gruppen von Paraphrenie und ihre Unterschiedliche Therapie-ansprechbarkeit	共	1976・10	Therapie, Rehabilitation und Preventon : P207-214, F. K. Verlag, Stuttgart, New York
棘徐波結合を示す成人患者における統計的意義	単	1977・11	臨床脳波 19 : 728-732
小児における脳波検査繰り返しの意義	共	1978・2	脳と発達 10 : 169-175
$\gamma$ -Oryzanol (Hi-Z) の精神疾患に対する使用経験	共	1978・9	新薬と臨床 27 : 1201-1207
神経症に対する Dipotassium Clorazepate (Mendon) の効果	共	1979・3	薬理と治療 7 : 827-835
非てんかん患者における棘波・脳波異常の意義	単	1979・4	大阪医大誌 38 : 143-180
Clotiazepam (Rize) の精神科領域における使用経験	共	1979・11	新薬と臨床 11 : 1845-1849
非てんかん患者における棘波・脳波異常の意義 今月のテーマ「精神疾患」	単	1981・2	臨床脳波 23 : 84-89
精神病院における栄養士の役割；料理教室、糖尿病教室の経験から	共	1982・6	臨床栄養 60 : 652-656
幻覚・妄想体験に対する Oxypertine (Forit) の効果の再検討	共	1982・6	医学と薬学 11 : 2305-2314
精神病院における肥満に対するグアーガム（ニューキャロプ）の使用経験	共	1983・1	臨床栄養 62 : 81-84
アルコール依存症の不定愁訴に対するパシフラミンの臨床効果	共	1984・1	医学と薬学 11 : 266-273
主として非定型精神病に対する Sodium Valproate の臨床効果	共	1984・2	薬理と治療 12 : 707-715
新しい Butyrophenone 系抗精神病薬・Bromperidol の精神分裂病に対する効果・安全性の検討—予備臨床試験—	共	1984・7	診療と新薬 21 : 1281-1285
EEG Abnormalities in Nonepileptic Patients	共	1985・1	Folia Psychiat Neurol Jap 39 : 43-58
非定型精神病に対する Zotepine の臨床効果	共	1985・8	診療と新薬 22 : 1940-1953
慢性精神分裂病に対する Thiothixene の臨床効果	共	1986・3	新薬と臨床 35 : 449-459
向精神薬による口渇に対するフェルピテン（アネートルトリチオン）の使用経験	共	1986・12	薬理と治療 14 : 349-352
躁病に対する塩酸 Sultopride (MS-5024) と Haloperidol の二重盲検法による薬効比較	共	1987・1	臨床評価 15 : 15-36
精神分裂病および非定型精神病の興奮状態に対する Sultopride (MS-5024) と Haloperidol の二重盲検法による薬効比較	共	1987・2	臨床評価 15 : 233-252
内因性精神病における臨床症状の再評価	単	1987・3	第 24 回全国大学保健管理研究会報告書 24 : 134
特異な下宿生活によって破綻を来した女子学生と家主との関わり	共	1988・3	第 25 回全国大学保健管理研究会報告書 25 : 234-236
卒業回避者のプロフィール	単	1989・3	第 26 回全国大学保健管理研究会報告書 26 : 211-214
精神分裂病に対する Timiperone の臨床効果と至適用量	共	1989・8	薬理と治療 17 : 411-478

MS-5024 (塩酸スルトブリド) 細粒剤の精神分裂病に対する臨床効果	共	1990・10	診療と新薬 27 : 55-83
Long-term follow-up of a febrile convulsion cohort	共	1991・1	Acta Neurol Scan 84 : 369-373
熱性けいれんコホートの追跡および無熱性けいれん移行例	共	1991・1	精神医学 33 : 65-70
高齢脳血管障害患者における Quality of Life (QOL)	共	1991・7	Geriat Med 29 : 1053-1060
高齢脳卒中患者の Quality of Life (QOL) と Activities of Living (ADL) —塩酸インデロキサジン投与の効果	共	1991・8	Geriat Med 29 : 1235-1245
Quality of Life (QOL) and Activities of Daily Living (ADL) of the elderly patients after stroke in Japan	共	1992・9	J Stroke Cerebro-vasc Dis2 (Suppl) : s145
外来高血圧患者のクオリティ・オブ・ライフ (QOL)	共	1992・10	Jp J Geriat 29 : 753-757
大学生の結核発病状況と定期健康診断のあり方について	共	1993・3	第30回全国大学保健管理研究会報告書 30 : 121-124
循環器疾患と QOL —新しい自己記入式質問表の検討	共	1993・4	心身医学 33 : 315-322
Avoidance of graduation	単	1993・9	関西大学社会学部紀要 25 : 31-45
脳血管障害のクオリティ・オブ・ライフ (QOL) に対する塩酸ピフェメランの効果—新しい自己記入式質問表 (QUIK) による検討	共	1994・8	新薬と臨床 43 : 197-203
クオリティ・オブ・ライフ (QOL) の評価、その I : 新しい自己記入式質問表 (QUIK) の検討	共	1994・10	関西大学社会学部紀要 26 : 1-14
クオリティ・オブ・ライフ (QOL) の評価、その II : 新しい自己記入式質問表 (QUIK) の検討	共	1994・12	関西大学社会学部紀要 26 : 65-72
てんかんの臨床遺伝 : 第28回日本てんかん学会シンポジウム てんかんと遺伝 (子)	共	1995・1	てんかん研究 13 : 29-30
新しい自己記入式 QOL 質問表 (QUIK) の信頼性と妥当性	共	1995・2	Jpn J Geriat 32 : 96-100
長期在宅患者とその介護家族のクオリティ・オブ・ライフ (QOL)	共	1995・3	臨床リハ 4 : 284-287
Clinical Genetics of Epilepsy	共	1995・6	Psychiatry and Clinical Neurosciences 49 : S207-208
高齢脳卒中入院患者のリハビリテーションにおける音楽療法の効果	共	1995・10	大阪医大雑誌 54 : 7-13
高齢者のクオリティ・オブ・ライフ (QOL) : 自己記入式質問表 (QUIK) による検討	共	1995・12	日本総合健診医学会雑誌 22 : 376-383
Photogenic convulsion	共	1995・12	Bull of the Osaka Medical College 41 : 53-59
障害者とクオリティ・オブ・ライフ (QOL) —高齢者を中心として	共	1996・1	現代のエスプリ 343 : 85-97 (リハビリテーション心理学、保坂隆編)
成年後見制度と精神医学 : 成年精神障害者の心理学的能力の検討	単	1996・3	関西大学社会学部紀要 27 : 1-20
高齢脳血管障害患者の Quality of Life (QOL) と日常生活動作におけるサアミオン (ニセルゴリン) の効果	共	1996・7	新薬と臨床 45 : 89-96
第14回公開講座 : 成年後見と意思能力—精神医学の立場から—	単	1996・10	ノモス 7 : 1-7
機能訓練事業参加者の QOL 評価	共	1996・11	大阪医大誌 55 : 55-61

年齢別、性別からみた狭心症患者の経皮的冠動脈形成術施行によるクオリティ・オブ・ライフの変化	共	1996・12	冠疾患誌 2 : 208-212
狭心症患者の生活内容 (Quality of Life) からみた経皮的冠動脈形成術の選択	共	1997・1	J Cardiol 29 : 13-22
脳卒中患者の退院後の QOL — 自己記入式質問表 (QUIK) による評価	共	1997・6	臨床リハ 6 : 613-618
生活習慣と定期健康診断	共	1997・6	大阪医大誌 56 : 8-13
LIMITATIONS OF PERCUTANEOUS TRANSLUMINAL CORONARY ANGIOPLASTY (PTCA) WITH REFERENCE TO QUALITY OF LIFE (QOL) ON ANGINA PECTORIS ASSESSMENT BY MULTI VARIATE ANALYSIS	共	1997・7	Japanese Circulation Journal 61 : 605-606 (Proceedings of the 61st Annual Meeting)
シンポジウム、健康を測る— (4) 精神面における健康を測る	単	1997・9	日健誌 JMHTS 24 : 337-338
在宅医療における家族介護者の Quality of Life (QOL) への影響	共	1999・4	関西大学法学研究所研究叢書 第 19 冊 : 43-57
自己記入式 QOL 質問表改訂版 (QUIK-R) の信頼性、妥当性と臨床的有用性	共	2000・3	日健誌 27 : 34-42
Significance of Brain Natriuretic Peptide Measurement as a Diagnostic Indicator of Cardiac Function	共	2000・9	Method Inform Med. 39 : 249-253, 2000
Significance of Measuring the Quality of Life in Health Evaluation.	共	2000・9	Method Inform Med. 39 : 213-216, 2000
新しい成年後見制度—痴呆症の病名告知を中心に—	共	2000・8	大阪医学 34 : 18-23
在宅介護者のクオリティ・オブ・ライフと介護負担の評価—Care Strain Index と自己記入式 QOL 質問表改訂版を用いて	共	2001・1	心身医 41 : 11-19
台湾留学生の適応問題と心理的援助	共	2001・3	Campus Health 37 : 523-526
留学生の健康管理における支援体制について	共	2001・3	Campus Health 37 : 531-534
病弱高齢者への介護負担 (第 1 章)	単	2001・3	関西大学法学研究所研究叢書 第 23 冊 : 1-37.
Effect of Music on Autonomic Nervous Activity in healthy volunteers: Preliminary study with a newly developed Wavelet analysis of heart rate fluctuation.	共	2001・7	The World Journal of Biological Psychiatry 2 (supplement 1) : 83S.
てんかん患者の QOL の評価、新しい自己記入式質問表改訂版 (QUIK-R) の検討	共	2001	大阪てんかん研究会雑誌 12 : 9-17
新しい成年後見制度—大学生の意識調査を踏まえて—	共	2001・12	関西大学社会学部紀要 33 : 87-111
Quality of Life (QOL) in the Elderly: Employing a Self-Completed Questionnaire for QOL.	共	2002・7	Health Evaluation and Promotion 29 : 16-19.
Plasma Nitrate/Nitrite Concentration in Healthy Population and Patients with Diabetes Mellitus-Relationships with Gender, Aging and Diabetic Complications	共	2002	Bulletin of the Osaka Medical College 48(1/2) : 1-6
Physiopsychological Evaluation of the Effect of Music on Autonomic Nervous Activity using a newly developed Wavelet Analysis of Heart Rate Fluctuation.	単	2003・3	Bulletin of the Faculty of Sociology, Kansai University 34 : 1-8
Measurement Care Burden on Family Caregiver: Using a New Assessment for Burden on Caregiver (ABC-16)	共	2003・8	International Psychogeriatrics 15 (supple 2) : 182.

The quality of life and the care burden of family caregivers.	共	2003・8	Journal of Psychosomatic Research55 : 148-149.
Validation of a new Assessment of the Burden on Caregivers (ABC-16)	共	2005・2	Bulletin of the Faculty of Sociology, Kansai University 36 : 1-14
新しい介護負担度尺度 ABC-16 (Assessment of the Burden on Caregivers) の信頼性と妥当性	共	2005・3	日老医 42 : 209-213
分担研究：青少年の自殺予防対策のあり方に関する精神保健的研究 (分担研究者影山隆之)：症例報告から見た大学生の自殺危険因子	単	2005・3	自殺の実態に基づく予防対策の推進に関する研究 (主任研究者上田茂)、117-122
個人情報の保護と産業保健	共	2006・3	社会学部紀要 37 : 1-37
関西大学における産業精神保健活動の現状と課題	単	2007・3	CAMPUS HEALTH 44(2) : 21-25
Influence of Loxoprofen Use on Recovery from Naturally Acquired Upper Respiratory Tract Infections: A Randomized Controlled Trial.	共	2007・8	Internal medicine 46 : 1179-1185, 2007
クオリティ・オブ・ライフ (QOL) の評価 自己記入式 QOL 質問表 (QUIK) 及び改訂版 (QUIK-R) の文献的展望	共	2008・3	社会学部紀要 39 : 99-132 (平成 18 年度関西大学学部共同研究費)
キャンパスにおける学生のこころの健康支援ネットワークへの IT (Information Technology) の活用	共	2008・3	平成 19 年度文部科学省学術フロンティア研究成果報告書 : 37-70
大学における学生へのメンタルヘルス支援 : Social Network System (SNS) の利用	共	2009・3	平成 20 年度文部科学省学術フロンティア研究成果報告書 : 167-201
勤労者のための新しいメンタルヘルス測定尺度 Mental Health Inventory-5 (MHI-5) の信頼性と妥当性および因果モデルの検討	共	2009・9	心身医学 49 : 1007-1015 松永祐子、飯田紀彦
大学における学生へのメンタルヘルス支援 (推薦論文) 業績 85 の報告書に加筆修正を加えている	共	2010・4	CAMPUS HEALTH47 : 115-120 河原みどり、飯田紀彦、松永祐子、花浴友利子、薦田朋子、東浦友美子
キャンパスにおける薬物乱用増大防止に向けて	単	2010・6	日本精神科病院協会雑誌 29 : 16-19
書 評			
Bleuler・Die schizophrene Geistesstoerungen 「ブックガイド」精神科医のための 160 冊	単	1985・7 1995・	Excerpta Medica, Tokyo, 第 2 版
石川信義「開かれた精神医療」を読んで	単	1991・1	書評 94 : 6-12
そ の 他			
職場のメンタルヘルス	単	1992・3	関西大学職員研修 8 : 1-29
関西大学の学生管理システム	単	1996・3	Campus Health 32 : 9-13
こころの健康	単	1996・3	Campus Health 32 : 58-63
成年後見制度と精神医学	単	1996・12	関西大学法学研究所研究所報 9 : 25-26
職場のストレスとメンタルヘルス	単	1996・12	Asocio 25(2) : 24-27
シンポジウムⅡ「阪神・淡路大震災が与えた大学生活への影響」	共	1997・3	第 34 回全国大学保健管理研究会報告書 34 : 105-123
台東区民のかかりつけ医に関する調査 (飯田紀彦、遠藤俊一、野中博編)	共	1997・3	東京都台東区環境保健部

キャンパーウエル要求度評価尺度について	単	1997・3	関西大学法学研究所研究所報 10:29
成年後見制度における日常生活支援の効果判定方法(紹介) キャンパーウエル要求度尺度—Camberwell Assessment of Needs (CAN)—について『高齢者の権利保護をめぐる諸問題—成年後見制度を考える—』(分担執筆)	単	1998・3	関西大学法学研究所研究叢書 第16冊:19-64
在宅介護者の Quality of Life (QOL) に影響を及ぼす要因の検討	単	1998・3	関西大学法学研究所研究所報 11:25
第2章「成年後見制度の改正」に関する要綱案の検討—精神医学およびメンタルヘルスの立場から—	単	1999・4	関西大学法学研究所研究叢書 第19冊:21-42
精神医学からみた『成年後見制度の改正に関する要綱案』の検討	単	1999・3	関西大学法学研究所研究所報 12:21-22
シンポジウム「キャンパス・セクシュアル・ハラスメントをめぐる」	共	2000・10	Campus Health 37(1):51-76
介護負担度の研究	単	1999・3	関西大学法学研究所報13:9-10
コメント(第19回現代報セミナー、高齢者の権利擁護:新しい成年後見制度をめぐる)	単	2000・3	ノモス11:253-2544
座談会「成年後見制度の点検と将来」成年後見制度研究班研究会(ミニ・シンポジウム)報告	共	2001・3	関西大学法学研究所研究叢書 第23冊:175-241.
全国大学保健管理協会加盟大学における保健管理の情報処理に関する調査報告	共	2001・3	CAMPUS HEALTH 37:49-54
藤田定発表に対する指定討論:症例研究(Ⅱ)性同一性障害の女子学生の治療をめぐる	単	2001・3	第22回全国大学メンタルヘルス 研究会報告書:53
大会長講演 逃避の今日と明日	単	2001・12	学校メンタルヘルス4:9-14
新しい介護負担度評価表の作成について	単	2000・3	関西大学法学研究所報14:7-8
精神障害者の権利擁護(第21回現代法セミナー)	単	2001・12	ノモス12:155-169
基調講演 栄養心理カウンセリングの創設	単	2002・3	第1回栄養心理カウンセリング シンポジウム収録:2-7 栄養心理カウンセリング研究会
シンポジウム「キャンパスメンタルヘルスの過去・現在・未来」座長	共	2002・3	第23回全国大学メンタルヘルス 研究会報告書:115-130
科学論文の書き方	単	2003・1	学校メンタルヘルス5:117-119
シンポジウム「メンタルヘルスの今日的課題:職員のメンタルヘルスケア」	単	2004・1	第24回全国大学メンタルヘルス 研究会報告書:97-100
シンポジウム「外来精神医療に何が望まれるか」座長	共	2004・3	外来精神医療3:51-82
学会印象記「第25回全国大学メンタルヘルス研究会」	単	2004・3	臨床精神医学33:339-340
共感と理解を築く高齢者とのコミュニケーション	単	2005・3	LERNANTO 4:2-10
シンポジウムⅡキャンパスハラスメントへの取り組み、司会	共	2005・1	CAMPUS HEALTH 42:69
症例報告から見た大学生の自殺危険因子	単	2006・3	平成17年度第27回全国大学メンタルヘルス研究会報告書:35-38、2006
脳卒中とQOL(看護に活かすQOLの視点、疾患別QOL向上に向けた実践)	共	2007・10	臨床看護133(12)、2007年10月 臨時増刊号:1777-1780
学生のヘルスマネジメントとマナー向上への取組(特集フィジカルヘルス)	単	2007・12	大学と学生48:52-56

見る・聴く・感じるこころの健康学	単	2007・4から 2008・3まで 1年間	毎日新聞大阪版金曜日夕刊 連載
シンポジウム「食の未来～作る・食べる・考える～」 記録	共	2007・3	社会学部紀要 39：219-254 司会：山口誠、シンポジスト： 熊野健、高増明、飯田紀彦、植 木砂織、水野真紀
キャンパスにおける学生のメンタルヘルス支援	共	2009・3	平成20年度文部科学省フロン ティア研究成果報告書 41-46
座談会「大学生のメンタルサポート」	共	2010・3	大学時報 No331、16-31
「若者の自立意識に関する調査」報告書（石田陽彦、上西 裕之編）第Ⅱ章 調査結果の総括と考察 飯田紀彦	共	2010・3	奈良県くらし創造部 青少年・ 生涯学習課、60-61
キャンパス・メンタルヘルスの最近のトピックス	単	2011・3	関西大学心理臨床学紀要 1